

## 原理と基礎：不偏心とよりよい選び

### ・黙想の心がまえ

#2 心を満たし満足させるのは、広く知ることではなく、ものを感じとり (sentir)、内的に味わう (gustar) ことである。

### ・流れとして

①内的に味わう→ ②識別・判断→ ③決断・選び  
心の動きを味わう 気づき・悟る よりよい方を

### ・ #23 原理と基礎

- (1) 自分が造られた目的：神を賛美し、敬い、仕える
- (2) 他の被造物：助けと妨げがある
- (3) 人間の態度：不偏心
- (4) 人間の態度：よりよいものを望み、選ぶ

「すべての被造物に対して、偏らない心を持たなければならない。従って私たちの方からは、病気よりも健康を、貧しさよりも富を、不名誉よりも名誉を、短命よりも長寿などを欲することなく、ただ私たちが造られた目的へよりよく導いてくれるものだけを望み、選ぶべきである。」

### ・パウロの手紙における、不偏心とよりよい選び（黙想のために）

2 コリント 6.1-10：無一物のようで、すべてを所有している。

ガラ 5,1-15：この自由を得させるために、キリストはわたしたちを自由にしてくださった。

ガラ 5,16-26：霊の導きに従う。

フィリ 1,20-26：生きるにしても、死ぬにしても

フィリ 4,10-14：いついかなる場合にも対処する秘訣を授かっている。

1 テサ 5,16-24：すべてを識別して、よいものを大事にしない

1 テモ 6,7-12：何も持たずに世に生まれ、何も持たずに去って行く。